

令和5年3月1日

令和4年度 第3回 大阪府立平野支援学校 学校運営協議会 議事録

大阪府立平野支援学校
校長 川村 典子

日時	令和5年2月20日（月） 10:00～12:00
場所	大阪府立平野支援学校 図書室
参加者	中村 清一（委員） 濱野 すま子（委員） 市場 達朗（委員） 谷藤 誠宏（委員） 中野 淳子（委員） 松本 理香（委員） 欠席 川村 典子（校長） 丸田 公司（教頭） 林 佳巨（教頭） 中川 忠彦（事務長） 橋本 伸彦（首席） 橋本 万以子（首席） 日置 優介（小学部主事） 外村 善一郎（中学部主事） 杉本 琢哉（高等部主事）
議題等	(1) 各学部の報告 (2) 令和4年度学校教育自己診断 結果と考察について (3) 令和4年度学校経営計画自己評価について (4) 令和5年度学校経営計画について
協議内容	(1) 令和4年度の各学部の状況について、各学部の部主事より報告が行われた。 (2) 令和4年度学校教育自己診断考察について、首席より報告が行われた。 (3) 令和4年度学校経営計画自己評価について、校長より説明があり、了承を得た。 (4) 令和5年度学校経営計画について、校長より説明があり、了承を得た。
意見等の概要	(1) 各学部の状況について ➤ 「リモート授業の内容について伺いたい。」と質問があった。当該部主事より「生徒の実態に伴い、知的障がい代替の教育課程の内容に則り、授業を行っている。また、同じ学習グループの生徒と同じようにモニターを並べて、同じ空間で授業を受けているような場面を設定している。」と回答した。 ➤ 「コロナによる行動制限緩和から、さまざまな行事が再開されたことに伴い、不都合はなかったか？」という質問があった。当該部主事より、「当時の行事担当者が人事異動等でいなくなり、打合せ方法の記録や、行事の周辺状況の記録等の必要性を感じた。」と回答した。委員より「当日の行事の記録を動画で撮影しておくことで、引継ぎ資料も兼ねることができる。」と助言を受けた。 (2) 学校教育自己診断について ➤ 委員より「ペーパーレス化に関する自由記述があったと資料にあるが、何が課題なのか？」と質問があり、教頭より「紙で配付するものが多く、デジタル化できるものはデジタル化していきたい。」と回答した。 ➤ 委員より「説明では、肯定的回答率の低さを説明されていたが、全体的な数値を見ると、決して低い数値ではない。」と助言を受けた。 ➤ 委員より「いじめに関する項目の肯定的回答率が低くはなっているが、いじめ事案がいつ生じても対応できるよう、校内体制が整っていることが大切である。」と助言を受けた。 ➤ 委員より「『学校では、児童生徒が学級担任以外の教職員とも気軽に相談することができる。（教職員アンケートの設問）』において、肯定的回答率が高いのが素晴らしい。」と高評価を受けた。 ➤ 委員より「教職員のゆとりを生み出す組織の工夫をしても、生まれたゆとりから教材研

	<p>究等に時間を費やすと、また時間が足りないという循環になり、矛盾が生まれる難しさが生じるだろう。」との見解を伺った。</p> <p>(3) 令和4年度学校経営計画自己評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 委員より「男性休養スペースの整備とはどのようなことか？」と質問があり、教頭より「コロナ禍になり、従来、男性休養スペースとして利用していた部屋を感染症等のコロナ対策部屋として流用していたため、男性休養スペースが無い状態になっていたが、今回を機に整えた経緯がある。」と回答した。 ➤ 「達成状況の記載の中で、目的を明記した上での達成状況が記載されているのが、わかりやすく良かった。」との高評価を受けた。 ➤ 「教職員のゆとりについて、今後の具体的な校長としての考えは？」と質問があり、「大阪府の指示事項にもあるように、[①会議資料のペーパーレス化] [②保護者への配付文書のデジタル化] [③時間外の外線電話の受付中止] [④欠席連絡の効率化 (Google フォーム)] 等の導入を予定している。」と校長から回答した。また、「時間外の外線電話の受付中止」に関連して、「児童生徒に関する緊急時の連絡体制はどのようになっているのか？」と質問があり、「保護者へは、校長が受信できる【校長Dメール】というシステムを活用し、メールを受信した際は校長から教頭へ指示を行う体制となっている。」と校長から回答した。 <p>(4) 令和5年度学校経営計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ マルトリートメントについて、「次年度に実施予定の研修に、できれば部下を参加させていただきたい。」と高い関心が寄せられた。 ➤ マルトリートメントについて、「報道等で教職員の不祥事が多く報道されているにも関わらず、不適切な指導を行っている教職員が多くいる。保護者からは校内のことが見えにくい。教職員の問題点に気付く（改善する）ために、日ごろからのコミュニケーションを大事にしてほしい。」と要望があった。また、首席より「教職員間のコミュニケーションにおいても大事な部分でもあるので、それを意識づけするために、『No！マルトリートメント週間（1月の例：相手の目を見てあいさつしよう）』を設定した。コミュニケーションの基本に立ち返るような意識づけを行っている。」と説明を行った。 ➤ 全校一斉定時退庁の取り組みについて、「基本は『定時退庁』であり、このようなことを掲げなければならないことが課題である。行事によっては、準備に時間を要することもあると思うが、教職員の意識を変えていく必要がある。」と助言を受けた。 ➤ 個別の避難計画について、「各家庭と学校が一緒になって考えてもらう良い機会だと思う。」と高評価であった。 ➤ 介護用リフトについて、「大阪府教育委員会としての施策はあるのか？」と質問があり、「大阪府教育委員会としての施策はない。他の支援学校の取り組みがあり、それを参考にしている。」と校長から回答した。委員より「肢体不自由支援学校には必要なものなので、各校に配置されるとよいと思う。」との意見があった。
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度 学校教育自己診断結果 ・ 令和4年度 学校経営計画 ・ 令和5年度 学校経営計画 ・ [教室マルトリートメント] に関する資料
<p>備 考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 傍聴者なし ・ 令和5年度第1回の開催については、6月に開催予定（後日、日程調整）